

# 4

## 第二次安芸太田町 長期総合計画 後期基本計画

令和2(2020)年度～令和6(2024)年度

## 第4部 施策評価

### 第1章 計画の達成評価

- 第1節 濑作評価の目的
- 第2節 評価の指標
- 第3節 各評価の体系
- 第4節 成果指標および活動指標の見直し基準



# 第1章 計画の達成評価

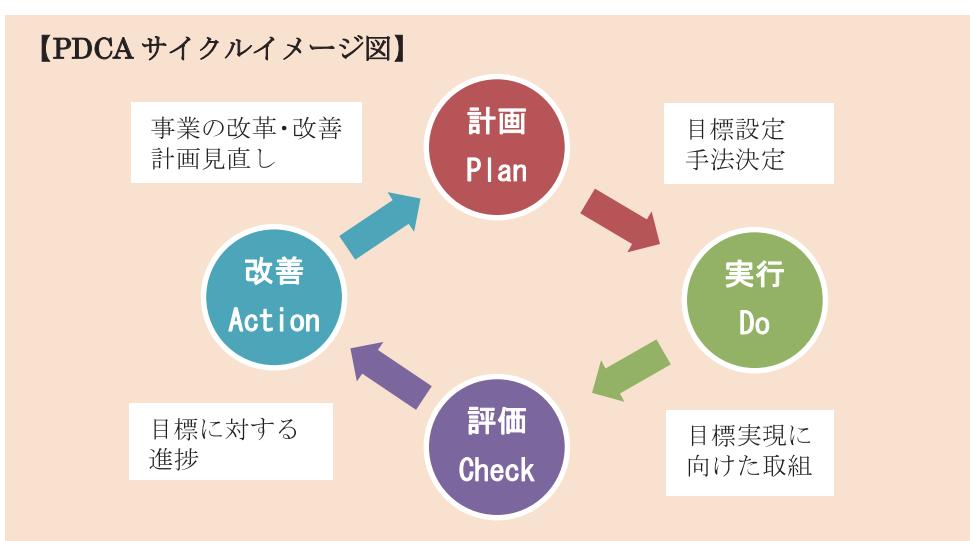
近年、自治体運営においては、「最少のコストで最大の成果」を生み出す効率的で実効性の高い、政策マネジメントの考え方に基づく行政評価制度の導入が進められています。後期基本計画においては、「めざす将来像」の実現に向け、各政策・施策・単位施策などを担当する各課や住民、地域、事業所などが、施策体系の目的に対する理解の上に、施策評価制度に基づいて適切に管理・推進することとします。

また、住民協働のプロセスを重視し、施策評価スキームに外部評価を加え、住民目線での評価ができる施策評価制度を取り入れます。

## 第1節 施策評価の目的

(1) 第二次安芸太田町長期総合計画に定めた施策目的を達成するため、業務執行におけるPDCAサイクルを構築します。

- ① PLAN(計画) : 目標設定・事業方針決定・手法決定
- ② DO(実行) : 目標実現に向けた取組
- ③ CHECK(評価) : 目標に対する進捗測定、成果測定、事業評価
- ④ ACTION(改善) : 事業の改革・改善、計画見直し



(2) 町の施策及びその進捗状況について、住民にわかりやすく情報提供し、行政に対する理解促進、協働のまちづくりを推進します。

## 第2節 評価の指標

評価の指標については以下の3点を中心に評価しますが、特にアウトカム効果（成果指標）からの評価を最も重要な評価の視点として位置づけることとします。

- (ア) どれだけ使ったか＝インプット効果
- (イ) どれだけサービスを提供したか（活動指標）＝アウトプット効果
- (ウ) どれだけの効果をあげたか（成果指標）＝アウトカム効果

### 第3節 各評価の体系

本計画の評価は、「リーディング施策」「施策」「個別施策」「成果・活動指標」を対象として実施します。

#### ■各評価の体系一覧

評価対象	リーディング施策	施 策	個別施策
目標年次	令和6年度（5年後）	令和6年度（5年後）	
評価時期	計画期間の最終年次	毎年度	
公開時期	概ね5年後	毎年9月	
評価フロー			

### 第4節 成果指標および活動指標の見直し基準

成果指標および活動指標は、施策を評価するうえで重要な視点として位置づけていますが、時代の潮流、社会状況の変化、その他外部要因などから指標自体の見直しが必要となることが考えられます。またそれらの目標値においても同様に、進捗状況などから見直す機会が必要です。

後期基本計画では、成果指標と活動指標を見直す視点を設けることで、指標の質を確保し、より精度の高い施策評価をめざします。

## 国の特別名勝三段峡

### 三段峡「歴史」

三段峡は広島県の北西部、広島市で瀬戸内海へと注ぐ太田川の十流域に位置する。正面口から聖湖までの本流の柴木川、八幡川の約12kmに加え、支流の横川川の約2km、二谷川の約1km、小板川と水梨川のそれぞれ数百mが名勝指定範囲で、合計すると約16kmである。

1925年に国の名勝に、53年からは「景観の国宝」と言える特別名勝に指定されている。広島県にある特別名勝は、厳島と三段峡のみで、全国でも庭園以外では12ヶ所を数えるに過ぎない。69年には周辺の山岳と共に、西中国山地国定公園に指定されている。

三段峡という呼称は、大正時代にその価値を見いだし、世の中に紹介した熊南峰の命名である。代表的な景観の三段滝からの名と考える人が多いが、南峰自身が「直接採用したのではない」としている。

江戸時代、豊富な森林資源を背景に、太田川上流域でたら製鉄が盛んに営まれていた。鉄山師は佐々木家（のちの加計家）で、明和年間に15代の八右衛門正封によって、一帯の名勝を描いた詩歌集「松落葉集」が編まれた。その序文に、地形は蜀に似て、「山に三峠のごときものあり、水に三峠のごときものあり」とある。蜀とは現在の中国四川省にあたり、三峠とは、峨眉山の三峰を指し、三峠とは長江の景勝地である。

南峰はこの古書の一節からヒントを得て、三段峡の源流をなす十方山、臥竜山、深入山を三峠に、横川川、八幡川、柴木川を三峠に見立てた。さらに、三段滝、三ツ滝によって、地形全体が三段を形成しているのを踏まえ、「三峠、三峠、三段」から一文字ずつ抜き出し、三段峡としたのである。

『三段峡 樹木・景観ガイドブック』より抜粋



三段峡の五大壮観の一つ「三段滝」



### 三段峡憲章

三段峡は問いかける渓谷です

深く刻まれた谷、澄んだ水

多種多様な動植物

重ねられてきた歴史に向き合う時

ある人は大自然の美を見いだし

またある人は山水画の筆致に景色を重ねます

小さな生き物のけなげな姿に感じに入る人

自然と人の狭間に横たわる大きな矛盾に気付く人

私たちは何を美しいと思うのか

何を大切にしているのか

そしてこれから何をしていくべきなのか

視線はいつしか私たち自身の内面に向かっていくのです

私たちは三段峡の問い合わせに向き合い続けます

幽玄の峡谷は問いかける 自然の価値の本質を

清麗の渓水は問いかける 歴史と文化の流れを

探勝の小径は問いかける 人と人との繋がりを

三段峡開拓100年 2017年(平成29年)制定

冊子「三段峡アウトドアニュージアム」より

※関連する施策の主な内容は、102-103ページ及び124-125ページに掲載